Women's Leadership I.W.A.T.E.

Newsletter

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）
I.W.A.T.E. 1 in 3 女性リーダー職研究者倍増プラン

February 2026 vol.07

北東北女性研究者 研究・交流フェア2025

2025年9月26日（金）、北東北地域における女性研究者の研究活動の活性化や、女性研究者同士、さらには企業等との相互交流、ネットワーク形成を目的として、「北東北女性研究者 研究・交流フェア2025」を開催しました。

第1部では、「産学官トップでいま改めて考える女性リーダー増加の加速」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションを行いました。基調講演には、三井住友海上火災保険株式会社 常任顧問、一般社団法人日本経済団体連合会 経済財政委員長（前ダイバーシティ推進委員長）の柄澤康喜氏をお迎えし、「ダイバーシティはなぜ必要か、どのように推進するのか」についてお話しいただきました。

続くパネルディスカッションでは、柄澤氏に加え、東北経済産業局 地域経済部 地域経済課長の伊藤ひろみ氏、岩手大学長の小川 智が登壇し、産官学それぞれの立場から、女性リーダー増加に向けた課題と、その克服に向けた考えが共有されました。本フェアは、対面とオンライン配信を併用して開催し、約100名が参加しました。参加者からは、「環境の変化や先進的な企業の取組を知り、多様性の必要性や推進の在り方を改めて考える良い機会となった」といった声が寄せられました。

第2部のポスターセッションには、北東北の研究機関に所属する女性研究者約20名が参加しました。各研究による1分間の研究紹介の後、ポスターを囲んで意見交換を行い、活発な交流が生まれました。あわせて実施したランチタイム交流会も含め、文系・理系を問わず様々な分野の研究者が交流し、新たなつながりや気づきを得る、充実した時間となりました。

第1部　基調講演 柄澤 康喜 氏

第1部　パネルディスカッション

第2部　ポスターセッション（1分プレゼン）

第2部　ポスターセッション（交流の様子）

第2部　ランチタイム交流会

北東北国立3大学連携 男女共同参画シンポジウム

2025年10月17日（金）、「地方大学における女性リーダー育成環境の課題」をテーマに、北東北国立3大学連携男女共同参画シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、秋田大学・弘前大学・岩手大学が2010年度から継続して実施している持ち回り企画で、今年度は岩手大学が主催校として開催しました。今回は、本学が実施した「女性リーダー育成環境整備にかかる教職員アンケート」の報告を中心に、地域に根ざした大学の魅力づくりや、大学経営におけるダイバーシティ推進の意義を考える場としました。当日は、会場とオンライン合わせて、3大学から40名以上が参加しました。

基調講演では、経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室長の高木悠一氏が登壇し、大学経営におけるダイバーシティ推進の重要性を語りました。制度整備にとどまらず、意識改革の必要性があることを強調されました。続く本学教職員のアンケート結果報告では、育児・介護との両立支援や、ICT活用による業務効率化が本学における今後の課題として示されました。

参加者からは「男性の育休取得促進」「オンライン会議の推進」「誰もが大切にされる職場づくりが大学の魅力につながる」「『人材は宝』という考え方に共感した」といった声が寄せられました。また、3大学の理事からは、女性教員の上位職登用や多様な働き方の実現に向け、大学間の連携を一層強化していく意志が示され、地方大学の未来に向けた変革の方向性が確認されました。岩手大学は今後、ダイバーシティ推進を「経営戦略」として位置づけ、地域とともに歩む大学づくりをさらに加速していきます。

若手・女性クロスアポイント制度

この制度は、企業など大学以外の機関に在籍する若手・女性研究者に、クロスアポイントメントの形態で本学で勤務してもらう制度です。企業等で活躍する若手・女性研究者がこの経験を通じて本学への理解と親しみを深め、本学の教員公募への応募を促すねらいがあります。また、若手・女性研究者が本学に増えることで、職場文化の若返りや多様性にフレンドリーな環境への変化、さらに、女子学生のロールモデルとなる女性教員に厚みが増し、女子学生の増加にもつながることが期待できます。

本学では、2022年度から複数の企業と調整を重ね、2025年度より、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社のエンジニアである菅真紀子氏を、理工学部の教授として迎えることとなりました。菅氏は、同社モバイルシステム事業部・センサーPF開発部の統括部長を担いながら、社内での女性技術者の活躍推進にも取り組んでおられます。

本学での勤務内容は以下のとおりです。

①理工学部での授業
②理工系分野における女性活躍推進を目的としたイベントの企画、運営

②については、2026年3月7日（土）に女子中高生を対象としたハッカソンイベントを開催予定です。モーションキャプチャーを使ってアバターを動かし、動画を作るという、楽しみながら理工系の技術に触れることができる内容です。菅氏のほか、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社の女性社員と本学の女性大学院生がチームとなって企画や運営を進めており、本学の女性大学院生にとっても、研究者や技術者として働く女性の先輩と交流できる貴重な機会となっています。そのほかにも、本学教員や学生、岩手県内の女子中高生や保護者・教員に向けたロールモデル紹介として、キャリア紹介や参加者との交流にご協力いただきました。

ロールモデル紹介

理工学部での授業

女性活躍・ダイバーシティ採用フェア

本学への教員公募への応募促進を目的として、2025年9月9日（火）～10日（水）に東北大学川内北キャンパスで開催された「第67回天然有機化合物討論会」の企業展示会場にブースを出展し、本学のワーク・ライフ・バランス支援、研究環境、採用情報、生活環境などについて紹介しました。

会場では、研究職を志す女子学生が想定以上に多く参加しており、特に博士課程の留学生を含む女子学生が、将来の研究キャリアを見据えて積極的に情報収集している様子が印象的でした。中には、「一度海外で研究留学を経験し、帰国後に研究職を目指したい」と語る学生もおり、国際的な視点を持つ学生の存在に心強さを感じました。さらに、留学生からはポスドク募集に関する具体的な質問も寄せられ、研究者としてのキャリア形成に対する関心の高さがうかがえました。

今後も、本学では、研究に情熱を持って取り組む女性研究者がさらに増え、さまざまな分野で活躍されることを期待しています。

令和7年度日本学術振興会（JSPS）男女共同参画推進シンポジウムに海妻室長が登壇

2026年1月14日（水）、日本学術振興会（JSPS）主催の令和7年度男女共同参画推進シンポジウムが開催され、「地域と歩む 地域から歩む～ジェンダーとアカデミアがひらく地域の未来～」をテーマに議論が行われました。

事例紹介では、本学の海妻径子副学長・ダイバーシティ推進室長が登壇し、「地域と共に女性人材育成 岩手大学15年の取り組み」を紹介しました。本学は、農学分野を基盤に築いてきた地域との結びつきを生かし、学内の取組にとどまらず、北東北や全国のネットワークと連携しながら女性人材育成を進めてきました。こうしたネットワークを通じて大学の知見や実践を地域へ波及させ、地域の意識変化を促す循環づくりに取り組んでいることに加え、地域企業と丁寧な対話を重ねながら、「すずらん基金」への寄附という形で本学の取組への理解と賛同を得ている点、また、こうした地道な企業とのコミュニケーションが、企業との協働や本学の女性リカレント教育の展開につながっていると紹介しました。

パネルディスカッションでは、理系イベントにおける体験の質の重要性や、世代間のジェンダー意識の差に対して大学が果たす役割について意見が交わされました。本学からは、実践的な取組が研究成果として評価される仕組みの必要性について提起しました。

（日本学術振興会撮影）

（日本学術振興会撮影）

国立大学法人 岩手大学 IWATE UNIVERSITY

［お問い合わせ］ 岩手大学ダイバーシティ推進室
〒020-8550　岩手県盛岡市上田3-18-8　Tel:019-621-6998　Fax:019-621-6999
Email：equality@iwate-u.ac.jp　HP:https://diversity.iwate-u.ac.jp
Twitter：@IwateU_Equality
事業サイト：https://iwatewomensleadership.iwate-u.ac.jp

事業サイト

岩手大学女性活躍・ダイバーシティ推進イベント
安田菜津紀さんトークショー 次世代が活躍できるいわてへ
～多様性の尊重を実現するために、わたしたちは何ができるか～

2025年11月24日（月・振替休日）、認定NPO法人Dialogue for People副代表でフォトジャーナリストの安田菜津紀さんをゲストにお迎えし、トークショーを開催しました。本イベントは、本学のすずらん基金のPRを目的として、2023年度から年に1回実施しています。

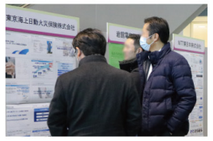
会場のキオクシア アイーナには、本学教職員をはじめ、企業にお勤めの方や学生など、幅広い層の方々が集まり、安田さんのお話に熱心に耳を傾けていました。トークショーの聞き手は、岩手大学の海妻径子副学長が務めました。「同化（少数派が多数派の行動様式に合わせる）とインクルーシブ（多様性を排除せず、すべての人の個性や能力を活かすこと）の違い」や、「民族多様性」「行動する次世代をどう育てていくか」などをテーマに、安田さんから貴重なお話を伺いました。

参加者からは、「考えていたもやもやが少し晴れたように感じた。自分も自信をもって行動したい」「社会の構造を変えていくために必要なことを、丁寧に説いていただいた」「目指したい姿と現実をつなげて考える良き機会になった」など、多くの感想が寄せられました。

また、会場では、すずらん基金へご寄附くださった法人によるダイバーシティ推進等の取組や、岩手大学ダイバーシティ推進室の取組を紹介するパネル展示も行いました。来場者に、すずらん基金の趣旨や意義について、より深く知っていただく機会になりました。

安田菜津紀さん

トークショー


パネル展示

「PI力（研究室主宰能力）向上研修／岩手大学女性のキャリア形成支援リカレントプログラム2025アドバンストセミナー開催」

本学が地域で働く女性向けに開講している「女性のキャリア形成支援リカレントプログラム2025アドバンストセミナー」の前半を、本学のPI力向上研修として同時開催しました。

女性のキャリア形成支援リカレントプログラム アドバンストセミナーは、主に中間管理職に就く女性を対象に、多角的な視野の獲得により、リーダーシップ、マネジメント力、自律性等を高めることを目指し、（1）女性のキャリア意識形成、（2）実践的スキルの上達、（3）女性同士のネットワーク構築を特長としています。

今年度は以下の内容で実施しました。

第1回　2025/10/3（金）
男性管理職と共に学ぶダイバーシティセミナー
講師：（株）NTTドコモ相談役（元代表取締役社長）、岩手大学理事　吉澤 和弘 氏

第2回　2025/10/24（金）
女性リーダーが知っておきたい知識習得セミナー＋女性活躍推進の視点で考えるワークショップ「歴史認識と現代社会」
講師：岩手大学人文社会科学部教授　梶 さやか／進行：岩手大学副学長　海妻 径子

第3回　2025/11/28（金）
女性リーダー向け社会人基礎力セミナー「問題解決体験を通して、リーダー像を考える」
講師：土屋心理支援オフィス　土屋 文彦 氏

第1回

第2回

第3回

全3回で延べ25名（うち学内7名）の参加がありました。第1回は、男性管理職の参加も受け入れ、学内外から3名の男性管理職の参加がありました。いずれの回も満足度は非常に高く、受講後アンケートでは全参加者が「大変有意義だった」「有意義だった」と回答しました。

参加者の声

「男性管理者による職場のダイバーシティ推進では的を得ないことが多い。こういったセミナーに参加することで、役職の隔たりなく、基本的な学びを得ることができる事にも気づいた。」（男性管理職・第1回）

「歴史が現在の世界情勢に与えている影響や、身近に及ぶかもしれない情報操作の恐ろしさ等、歴史を学ぶ意義を感じた。」（第2回）

「グループワークが特に有意義だった。問題解決に有効なミュニケーション方法、その際の相手の心理状態を知ることができた。」（第3回）

女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度　～海外派遣制度利用者の声～

三野宮 春子
人文社会科学部 准教授

渡航先：米国
（2026年1月7日～12日）

今年1月7日から4泊6日の日程で「女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度」を利用して「第24回ハワイ国際教育学会」に参加し、「L2タスク活動におけるファシリテーション行為のマルチモーダル会話分析」と題して90分間のポスター発表を行いました。学習者中心の英語コミュニケーション活動を指導する際どう振る舞えばよいか悩む教師が少なくないため、データに基づく演習と振返りの機会を提供して、その成果を分析しました。発表では、ファシリテーションに関心を持つ研究者たちから熱心な質問があり、自分の研究を他者視点で捉え直すことができました。

物価や為替の影響で、特に欧米諸地域で研究活動を行う際の費用が増大しているため、国際学会への参加を支援してくださる制度は非常に有難いです。前任校で数年前に科研費を使って同じ学会に参加した際には自己負担額が10万円以上になったので、当初は「しばらく海外は行かなくていいかな」と思っていました。しかし、そのような事情を汲んで規定の範囲内で柔軟に運用していただけたおかげで、今回の自己負担は最小限に抑えられました。応募前から報告後まで丁寧に相談に乗ってくださったダイバーシティ推進室や学部事務室の方々、関係者の皆様にお礼申し上げます。

杉山 智風
教育学研究科 准教授

渡航先：香港
（2025年12月7日～13日）

このたび私は、「女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度」を活用し、香港で開催されたInternational Society of Sport Psychology 16th World Congressにて研究成果を発表する機会をいただきました。本制度は、女性研究者が国際的な研究発信やネットワーク形成に挑戦する機会を後押しするものであり、研究活動の幅を広げるうえで大きな支えとなりました。特に、渡航費等の支援があることで、海外学会参加への心理的および経済的ハードルが下がり、研究成果を国際的な場で発信する一歩を踏み出しやすくなったと感じています。

本学会では、日本の高校生を対象としたマインドフルネスヨーガを用いたストレスマネジメント教育について、部活動という日本特有の文化的文脈に着目して報告しました。意見交換を通じ、研究の独自性への評価や今後の発展可能性について多くの示唆を得ることができ、研究視野が大きく広がりました。一方で、渡航準備や事務手続きのスケジュール調整に関して、初めて制度を利用する立場としては、早めの情報共有や具体例の提示があると、より利用しやすくなるのではないかとも感じました。本制度が多様な研究分野の女性研究者にとって、国際的な挑戦への確かな後押しとなることを期待しています。

Bai Lanlan（白 蘭蘭）
農学部 准教授

渡航先：ドイツ
（2025年10月4日～11日）

本制度の支援を受け、2025年にドイツで開催された国際ウイルス学会「RetroPath2025」に参加し、研究成果を発表する貴重な機会を得ました。本制度により、レトロウイルス研究分野の第一線で活躍する研究者と最新の知見を共有するとともに、国内外の研究者との活発な議論や交流を深めることができ、今後の研究発展に極めて有意義な経験となりました。

私の研究は、これまでに同定した牛伝染性リンパ腫ウイルスの感染レセプターとウイルスとの結合部位を明らかにすることが目的で、ウイルス侵入機構の解明のみならず、感染阻害薬やワクチン開発への応用が期待されます。本成果は、将来的なBLV感染予防・清浄化戦略の確立や、ヒトおよび動物におけるレトロウイルス研究全体の発展にも寄与すると考えています。

学会開催期間中には、渡航先において大規模なストライキが発生するという予期せぬ事態もありましたが、本制度はそのような状況にも柔軟にご対応くださり、女性研究者の挑戦と国際的ネットワークの構築を力強く支援する制度であることを実感しました。本制度のご支援により、経済的負担を伴うことなく国際学会において研究成果を発表できました。今後も本支援制度が、世界で活躍する女性研究者の育成と研究のさらなる発展に寄与することを期待しています。

呉 静
農学部 准教授

渡航先：米国
（2025年12月14日～20日）

本制度の支援により、私は2025年12月にアメリカ・ホノルルで開催された環太平洋国際化学会議2025（Pacifichem 2025）に参加し、「Search for hormones in higher fungi」という題目で研究発表を行うことができました。国際的な研究交流の場において自身の研究成果を直接発信するとともに、世界的に著名な研究者から多角的な意見や助言を得ることができ、大きな刺激を受けました。

また、発表会場周辺の公園で、我々の研究対象であるフェアリーリングに4例も出会いました！フェアリーリング（菌輪）とは、芝生が輪状に周囲より繁茂あるいは生育が抑制され、その後キノコが発生する現象を指します。フェアリーリングは世界各地に分布する現象で、海外でも研究対象を直接確認できたことは、本研究の国際的な広がりを実感するとともに、大きな喜びと今後の研究への励みとなりました。

本会議を通じて得られた研究者間の交流に加え、偶然ではありましたがフェアリーリング現象を実地で確認できたことは、今後の研究の発展に資する重要な知見を得る貴重な機会となり、研究者としての視野を広げる極めて有意義な経験となりました。特に、女性研究者にとって国際的な研究発表の機会を得ることは大きな励みであり、本制度のご支援に心より感謝申し上げます！